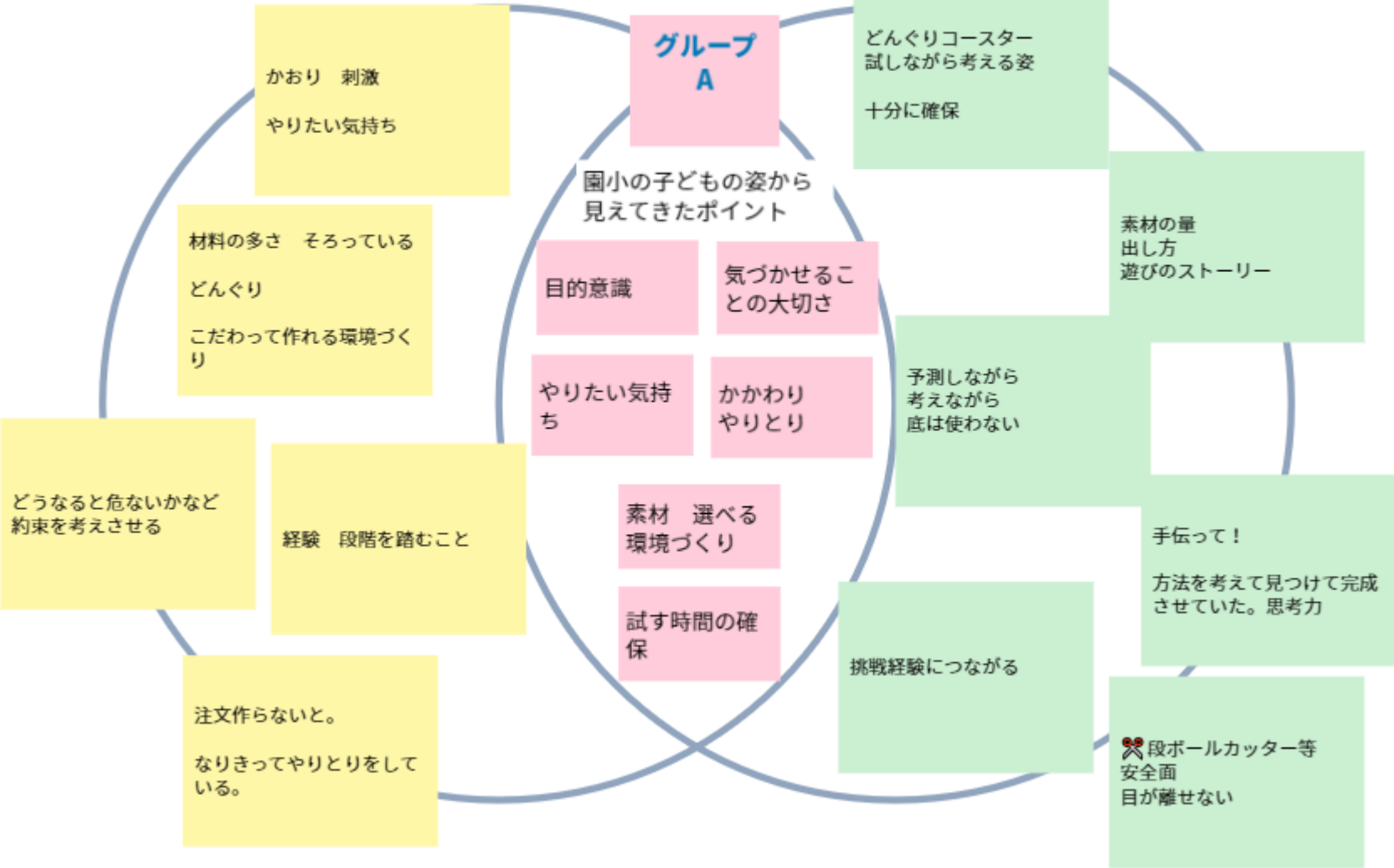
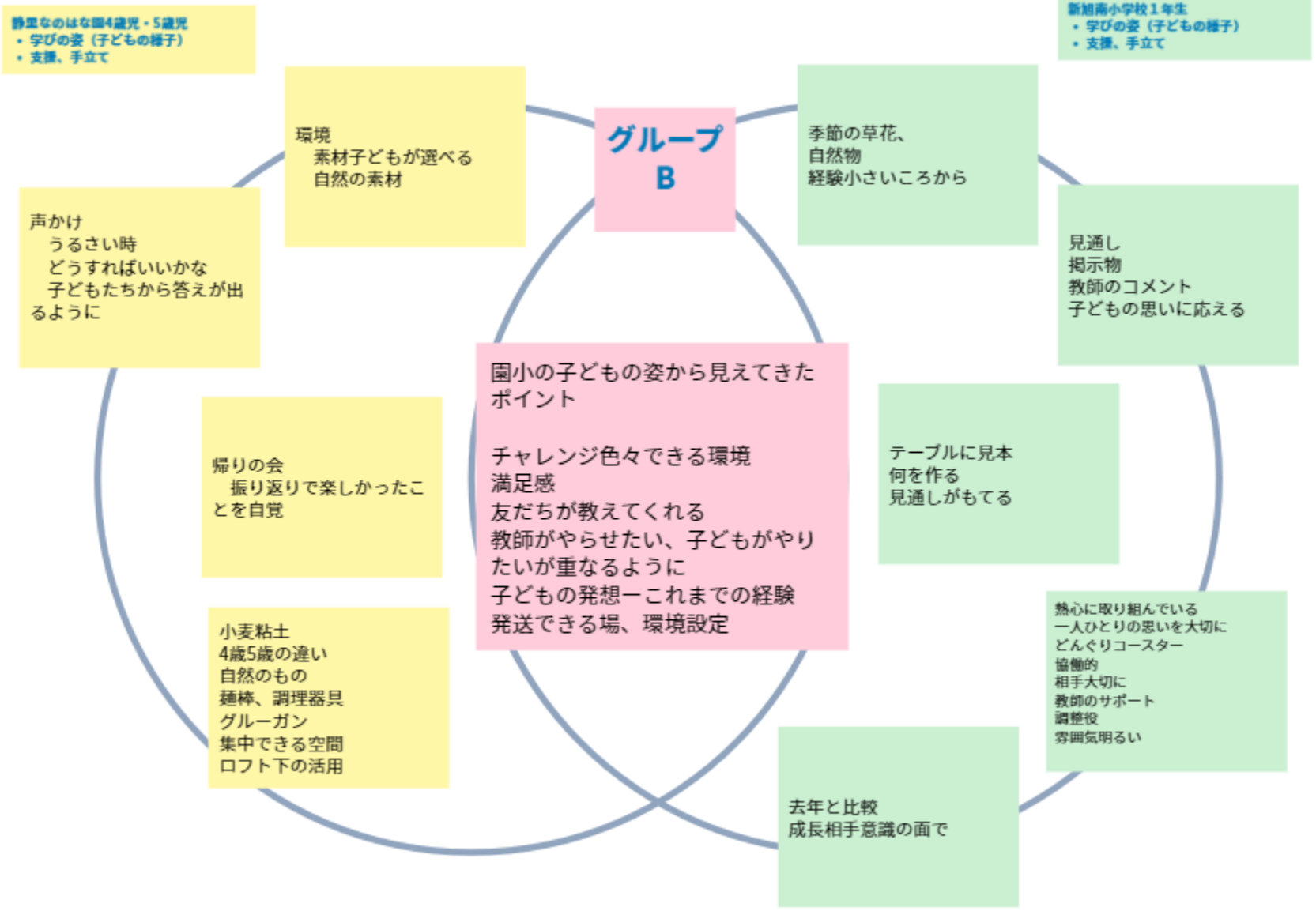


静里なのはな園4歳児・5歳児
・字びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

新旭南小学校1年生
・字びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て





静里なのはな園4歳児・5歳児
・ 学びの姿 (子どもの様子)
・ 支援、手立て

新旭南小学校1年生
・ 学びの姿 (子どもの様子)
・ 支援、手立て

グループ

C

自分たちでこうしたい
子どもたち同士で話し合う
環境設定

5歳児
環境設定がいい
イメージしたものをすぐに
作れる
子どもたちがいきいき
声かけもあたたかい
子どもたちをつなぐ声かけ

グループワーク中心
教師の手厚いサポート
子どもたちを安心させてい
る
目線を意識させている→聞
く力につながる

園小の子ども姿から見てきた ポイント

- ・ 認めの言葉かけ
- ・ 環境設定→ワクワク感、物があふれている
- ・ たらない環境を作る→子どもたちが考えるきっ
かけになる
- ・ 信頼に教師が応える。先生と。友だちと。
- ・ 教師の手立て
- ・ 自律心、思考力
- ・ 子どものやりたい気持ちを受け止める
- ・ 振り返り→全体共有
- ・ 時間が決められたなかで、ゆっくり時間、場を
設けてあげる
- ・ 子どもたちの声を待つ。
- ・ 考えさせる時間をつくる。

5歳児
保育室全体を使った遊び
保育者が子どもの意見を
しっかり受け入れている
自然物がたくさん (さつま
いも)
→感性が豊かになる

年長組のためにしてあげよ
う
的当てチーム
試行錯誤。子どもたちで話
し合う。

物と向き合える
材料が豊富にあった。
先生のために、意欲、時
間、場が確保されていた。
秋に触れてほしいという思
い

振り返り
その場ですることが大事
自分たちがした工夫だけで
なく、難しかったこと。
まどが大きかったらできる
のに→教師が発言を見逃さ
ないようにする。

静菜なのはな園4歳児・5歳児
・学びの姿 (子どもの様子)
・支障、手立て

新旭南小学校1年生
・学びの姿 (子どもの様子)
・支障、手立て

グループ D

道具と素材が豊富
本物に近づいた遊びになる
ように、道具の準備をする。

朝の会
担任が子どもの話を聞く中
で
ボールの取り合い
思いを言えずにゆずりあう
→思いを受け止め、全体で
確認

掲示物
山のイラストで段階が分か
りやすい。
見通し 自分たちのめあて
→自立心の芽生え

段ボールの切り方
丸く切るのに、下書き支え
る
何もしてない子が、何した
らいい？

園小の子ども姿から見えてきた ポイント 環境構成 保育者教師の立ち位置 声掛け

5歳の朝の会 当番活動の際の保
育士の声掛け
先生が前に出過ぎず、簡単な一言
で、子どもの意識を戻す声掛け
→子どものやる気、やってみた
いにつながる

場の設定 広い場所で、机
園との違い
園:自分たちが楽しむ
小:誰かを楽しませるために作る
自分の思いが伝えられる
例:ガムテープ持ってきたで

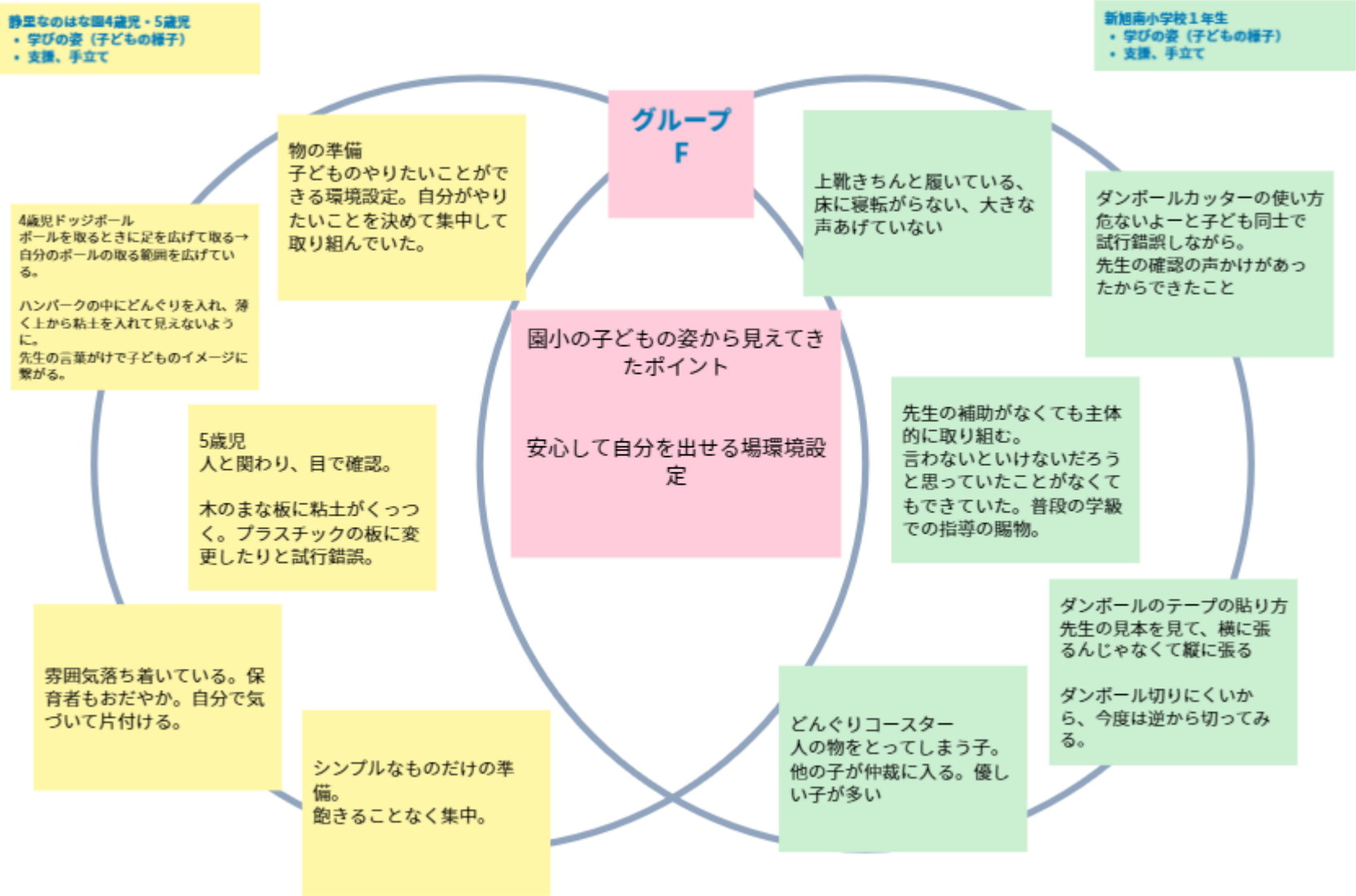
素敵な環境
保育者だけでなく、子どもも準備
に加わる
子どもが作るための土台の作り方
例 どんぐりを大きさに分けて置
く
→思考力につながる環境設定

年齢が上がる毎にレベルアップ
材料の準備
年長→小1
1年生はもっと子を離していい？
困りごとが出たら、他のグループに、
「〇〇で他のグループが困ってるんやけ
ど、いい案ない？」など、他のグループに
広げてみようか

今日の教師の関わり方
園での姿と変わらなかった。
→学校でも自信を持ったまま
活動できている。
子どもを信じて
ルール設定(段ボール切る時は
2人で)

「誰かお客さん来てくれん
かな」
他のところで遊んでいる子
が、それを聞いて、自分の
作品を置いてまでお客さん
になりに行く

バンドを出す量の力加減
足りなければ追加
遊びの中で、必要な分量の
出し方を学ぶ



野菜なのはな園4歳児・5歳児
・学びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

新旭南小学校1年生
・学びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

グループ G

4歳には4歳の環境づくり。
背丈に合ったもの。
子どもたちだけで活動が進んでいくところ、それができるような雰囲気作り。

ほし組
お化け屋敷、ごちそう作りをし、のびのび遊んでいる。保育者が常に声掛けせずに、子どもたちでどうしようかを考えていると感じた。

保育者の顔を見て、信頼関係ができていたと感じた。
こどもたちからの思いを汲まれていた。
ゆり組のふりかえりが良かった。

野菜の本物を切るという経験が園でできること
包丁、遊びでも使える。年長児では料理教室に生かしていく。

園小の子どもの姿から見てきたポイント
必要最小限の関わり方、子どもたちを主体にする。
ふりかえりの大切さ。
一年生、次は〇〇したいと言えるところが素晴らしい。園からの経験。
ティーチャーからファシリテーターへ。
サークルの中心に保育者・教師がいるのではなく、いかにサークルの一員になれるかどうか。

ロボット作り
担任の声かけ協力して活動する姿があった

的当て
ダンボールカッターで切り始める子
自分なりに取り組む子

ふりかえりができていないのが残念だった。

クレーン
離れてよ、と言うけどうまくいかない。
ダンボールを倒してから、
(倒れてから) 思いついて
活動が広がっていった。

45分でおさめることの難しさ。子どもと教師との関わりの難しさ。

めあてに向かって取り組んでいた児童とそうでない児童。どこまで達成できたか。

床に座って、子どもに近い目線でいる姿。子どもにとって、安心感が生まれていた。

ダンボールカッターの使い方、授業の初めに注意喚起。

静里なのはな園4歳児・5歳児
・字びの姿 (子どもの様子)
・支障、手立て

新旭南小学校1年生
・字びの姿 (子どもの様子)
・支障、手立て

グループ H

やってみたいと思える環境
設定

身近にある材料
大人も遊びたくなる環境
自然にやってみたいと思える環境

何をしたいかを考えて素材
を選んでいる

的当て
目的意識が明確
それを大事に取り組んでいる
目的のためにどうすればいいかを考えていた

4歳児
転がしドッジ
子供が困ったときには受け入れる

リフレッシュできる環境
自分で戻ろうという思いに繋がった

園小の子どもの姿から見えてきたポイント

先生の立ち位置、どこに目を配っているか
一緒に座っての朝の会
共に生活している感じが良い。
発達段階に応じた対応。

自分でできるような先生の支え
子供達を伸ばしていく。

自分で答えが出せるような関わり
子供達への投げかけ

人数がある程度いると子供達同士で考えることができ自立できている

できたものを保育者と共有
子供同士での共有も良かった

やってみようという気持ちに繋がる

答えを出すのではなく「どうする」と投げかける

声のトーンも良かった

先生
大きな声での指示は最小限
子供達の意見に寄り添いながら

ダンボールカッターの使い方
友達同士で考えながら、話し合いながら使っていた

使い勝手が悪い子もいたが、お手伝いできていた
力のちょっと上の材料を準備するのがいい

片付け
役割分担ができていた
毎日の積み重ねで要領よくできていた

目的に向かって動けていた

静里なのはな園4歳児・5歳児
・学びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

新旭南小学校1年生
・学びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

環境
素材の数が多くてびっくり
した
主体的に動いていた
子どもの仕掛けにびっくり

グループで戸惑っている場
面があった

先生の口調がとても穏やか
お片付けの流れも自然

グループ I

伝えたいということをもっ
とお互いに言い合えると繋
がれたかもしれない

自分のすることがわかって
迷いなく行動することがで
きていた

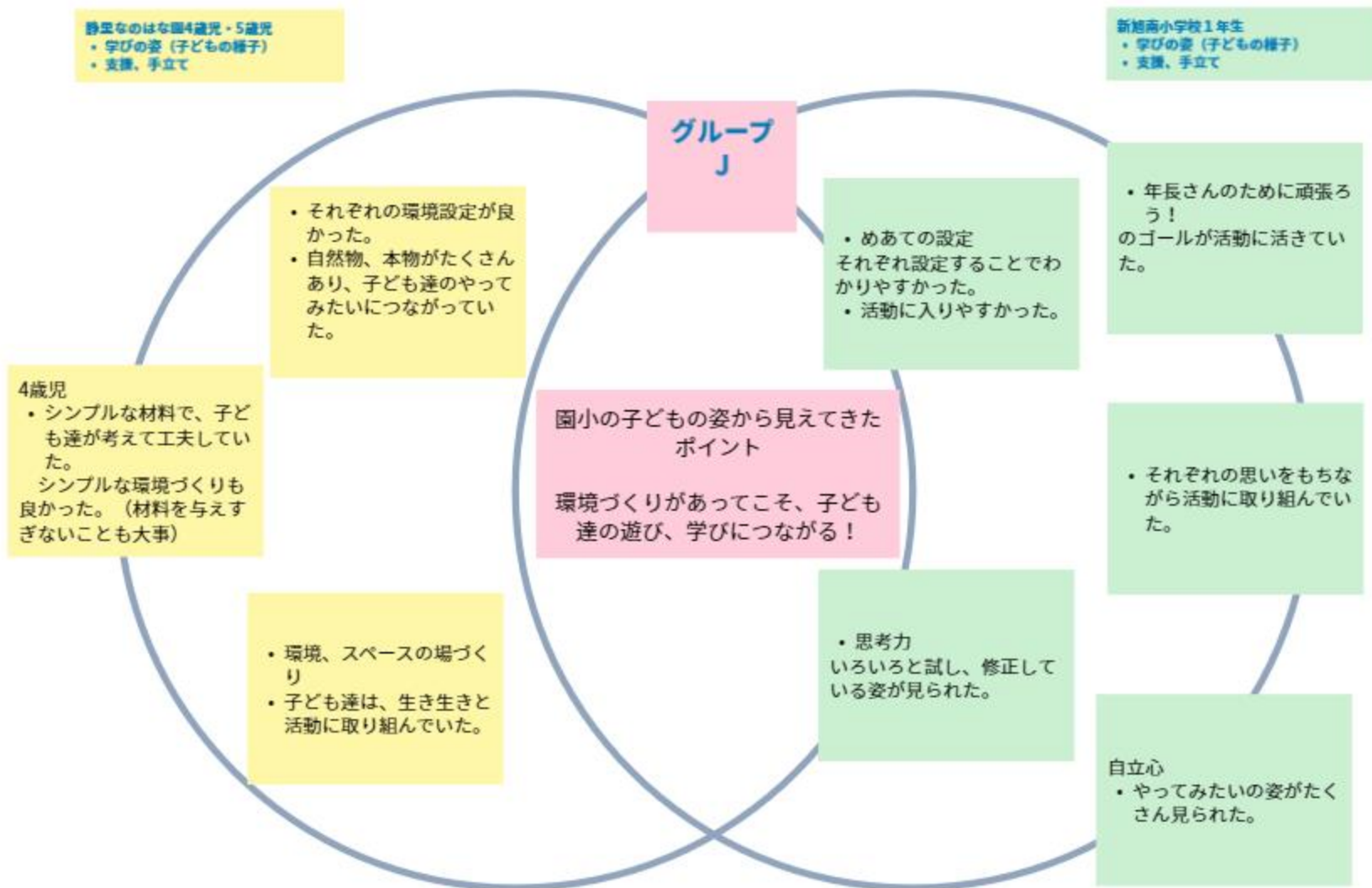
園小の子どもの姿から見えてき
たポイント
子どもの様子を見ながら主体的
に促してあげる声かけ
繋げてあげる声かけを大切にし
ていきたいと思う

自分のしたいことを言葉に
出してイメージを共有する
ことが大切だと思った

声かけ
一歳違うだけで声かけが変
わってくる

4歳児はどんどん声かけし
てやる気を出させておられ
た
5歳児はほとんど指示をせ
ず、ポイントを絞って声か
けしておられた

協力してする姿が見られた
自分だけだとできないと
思って
声かけ



静里なのはな園4歳児・5歳児
・学びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

新旭南小学校1年生
・学びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

グループ K

- ・素材が豊富、色合いも様々な選択して取り組みを進めていた。
- ・保育士が一つの意見を他児に広げていた。
- ・子供達で片付けもできていた。

- ・環境設定が行き届いていた。
- ・自分のことだけでなく、友達との関わりも見られた。

- ・山形の単元の流れがわかりやすくて大変良かった。

年長さんと呼ぶことを目指して一生懸命活動する姿が見られた。

園小の子どもの姿から見えてきたポイント
時間の確保 (意識の継続)
めあての再確認の時間の必要性

- ・園児の行動とそのときの思いをしっかりと見とって言葉がけをされていた。→次もやってみたという気持ちにつながる。
- ・人と関わりながら遊ぶことができていた。
- ・自然な流れでお店屋さんごっこに流れていた。

- ・1時間1時間毎のめあてを決めて活動できるのは、流石に1年生だと感じた。

- ・道具の使い方を今までの遊びの中でマスターしてきている。
- ・お店のイメージもバッチリ。
- ・道具がたくさんあり、いろいろな遊び方のアイデアが生まれていた。

- ・透明版のどんぐり転がしが面白い。下から見える世界に興味広がる。

- ・グループのメンバーと会話しながら上手に進めていた。
- ・道具の扱いを使いながら学んでいた。協力も見られた。

- ・園よりも指導者の人数が少ないので、たくさんの方の活動を見とるのが大変だと感じた。

静里なのはな園4歳児・5歳児
・学びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

新旭南小学校1年生
・学びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

グループ L

やりたいことが安心できる環境設定されていた
どんぐりころがし
4才 マスキングテープは自分でちぎれる。透明のアクリル板。
「自分が」楽しんで遊ぶための工夫

どんぐりころがし 目的がはっきりして子供が動いている。同じことをしているけど、園は活動が流動的。

園での子どもの育ちを知ることが大事。園の先生が来てて子どもうれしそう。こんなことできるようになったんやでー。
どんぐりコースター 一つ共通の目的をもつことで、友達と話す協力する
自分がまだ楽しむことで精一杯な子もいる どうやって思考力のばす？

たくさんどんぐり、花 遊ぶ材料選ぶことができる環境設定。
今日はどんなこと楽しかった？みんなに聞いてもらうことで明日はこんなことやってみたいー共有すること大事。

園小の子ども姿から見えてきたポイント
子ども一人ひとりが活動の目的をもつこと。友達と共通の目的をもつことで、話をしたり、協力したりすることができる。

小学校でもふりかえり 最終目標まで目で見えるようにされていてよい

生活面 4歳児 見通しもって行動できていた 自立心○
あきらめずに頑張った子におめでとうー 学年 気持ちを受け止めることで自立
どんぐりコースター 透明の板にすることで、転がる勢い 筒の中のどんぐりの動き見れる。どっちに行くのか。遊びの中で試す 工夫 思考力につながる

ころがしドッチボール
先生も楽しそうな表情。子供達も楽しめる。一緒に遊びたくなる。体を動かしたくなる。
ボールの取り合いになったときは一緒に投げる、か、じゃんけんで勝った子が投げる
先生が行かなくても子どもたち同士で話し合えてきた。

小学校は単元があり、時間に限りがあるが、生活科は、余裕をもった単元計画を立てることができる。子どもの思いを大事に。

見通しもってよい。ただ、片付けさせてない 段ボールカッターささったまま終わった。目的 園は目的を自分で作る 目的があるから協力できる。段ボールまどあて イメージがバラバラだけど、ちょっとずつ進む 結果よりも過程

静里なのはな園4歳児・5歳児
・字びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

新旭南小学校1年生
・字びの姿 (子どもの様子)
・支援、手立て

やってみようと思えるコーナーや環境づくりがされていた。

子ども主体になっていた。寿司作りで、海苔を巻いてみたりお皿に乗せてみたり何度も試していた。

初めはどんぐりをそれぞれ転がしていたが、保育士の声かけからみんなで協力して取り組めるようになっていた。

人がいっぱいの中、気に入ることなく遊んでいた。
4歳児では、素材を少しずつ出していった。5歳児は思いに寄せて材料をどんどん出していた。
5歳児の素材研究がよくされていた。

帰りの会の振り返り (4歳児)
・チャンピオンおめでとう！という言葉かけた子に対して、言ったことを認めていた。
・ボールの譲り合いが多かったが、ボール欲しいという気持ちは言ってもいいよという声かけ

挫けそうな時に、どうしたらいいかな？というヒントを与えていて、おかげで子どもたちが自分で考えられていた。

感覚がたのしい材料や用具を準備されていた。

グループ N

園小の子どもの姿から見えてきたポイント

- ・見通しを持ってできるようにする
- ・環境づくり
- ・挫けたときのヒントの出し方や、逸れたときに戻す声掛け

ガムテープを欲しい長さにして、友達がちぎってあげていた。

グループに分かれて、黙々と作業していた。

ロボットやクレーンゲームで1人になっている男の子は、友だちに助けを求めながらめあてに向かって作業していた。

パチンコのグループは、元々作っていたまを大きく作り直すために、作っていたまを協力して切っていた。

どんぐりコースターの男の子は、作っていた仕掛けを壊して、何度も試して作り直していた。

友達と協力して、ダンボールを切っていた。

めあてを確認していたから、なにをすればいいかわかって動いていた。掲示もどんどん山を登っていくような風になっていて、わかりやすく楽しめるようになっていた。

野原なのはな園4歳児・5歳児
・学びの姿 (子どもの様子)
・支障、手立て

新旭南小学校1年生
・学びの姿 (子どもの様子)
・支障、手立て

グループ

環境あってこそその保育。教師の「どうしたらいいかな」という声かけが多かった。自分たちでできるように材料が置いてあった。ダンボールカッター、包丁など危ないものも使ってこそ学びがある。

4歳⇒先生を仲介して解決していく
5歳⇒子供に任せる。困った時に先生が出ていく

どんぐりスライダー
どんぐりが転がっている様子をみたい⇒透明にする工夫が見られた

園小の子どもの姿から見えてきたポイント

子どもがワクワクする環境

必要に応じた言葉かけ

授業者のファシリテート力

中学生になっていくにつれて思考力は必要になる。児童が自分たちで考えてやっている様子が見られた。たくさんの児童がいっぺんに動く目が行き届かず指導が大変であるが、担任の先生の今までの指導の下地があるのだろうと感じた。

保育園と環境づくりがよく似ていた。連携がとれていた。

どの教科でもグループ編成が大切になる。言葉かけ(必要か必要でないかの判断も含む)のタイミングで思考力が芽生える。

「〇〇がやりたい」⇒答えを言うのではなく「どうしたい?どうしたらいい?」と教師が子供が考えるように切り返していた。前の掲示の工夫もよかった。

1年生だけでここまでできるのが驚いた。活動場所にゴールがあって分かりやすかった。今日やることや次やることが子供の言葉で振り返えることができていた。

静菜なのはな園4歳児・5歳児
・字びの姿 (子どもの様子)
・支障、手立て

新加南小学校1年生
・字びの姿 (子どもの様子)
・支障、手立て

グループ P

グループのめあて、ふりかえりで、それぞれの見通しがみえた。

ダンボールカッター、上手に声を掛け合い、使っていた。
動きながら、支えるなど。安全面も見られていた。

どんぐりコースター、途中でどんぐりが落ちないように、話し合い、考えて、ためしていた。

自分たちで、いろいろなことをためして、改善しようとしていた。

園小の子ども姿から見えてきたポイント

- ・考えたことをすぐに試せる、試行錯誤出来る環境。
- ・やってみるなかで、思考が深まる。
- ・年齢相応の経験の積み重ね。

4歳児
友だち同士の関わり合いが強い。
先生は、子ども同士をつなぐ声かけ。
子どもが見えていない他の子の姿を、子どもに伝える。

アクリル板を使うことで、遊びが広がったり、友だち同士の関わりが増える。